

一般社団法人あいち多胎ファミリー  
理事長 日野紗里亜

みなさまこんにちは。あいち多胎ファミリー理事長の日野紗里亜です。  
本日はイベント企画当初の想像をはるかに上回るたくさんのご家族に足を運んでいただき、  
また、ご協力をいただきまして、本当に有難うございます。第1回目の開催ということで何かと  
行き届かない部分等あるかと思いますが、本日はどうぞよろしくお願い致します。

初めに、私は、4歳の娘と3歳の三つ子の男の子の4人の母親です。  
あいち多胎ファミリーという団体は、皆さまもご存知かと思いますが、昨年の豊田市の三つ子  
虐待死という悲しい事件をきっかけに、私と同じ三つ子の母と現在働いている福祉事業所の協力  
を得て立ち上げる運びとなりました。  
少子化の現在、本来であれば多く授かった命はとても喜ばしいはずなのに何故このような悲しい  
事件が起きてしまったのか、もう二度と起こってはいけない、多胎家族当事者としてそのように  
思いました。  
私はいち三つ子の母ですが、愛知県で多胎支援の団体を立ち上げた代表として、今日どうしても  
皆さまにお伝えしたかったことがあります。  
それは子育てを親が決して一人で抱え込むのではなく、周りを頼るという心構えと勇気を持つ  
ということです。  
それは、お母さんのためだけでなく、一番は愛する子どものためです。

私はまずお母さんたちへ自ら支援を求めることの重要性を伝えること、そして求められる多胎  
支援の具体的なネットワークを築いていきたいと強く思っています。  
おとなりの岐阜県には、ぎふ多胎ネットさんという素晴らしい多胎支援の団体、ネットワークが  
ありますが、ここ愛知でも本日のゲストの方々のように、日頃から多胎家族を支援してくださる、  
すばらしい理解者がいます。  
私はここ名古屋第二赤十字病院で出産し、こちらの退院支援の中で本日のゲストでもある訪問  
看護ステーションにつなげていただき、それにより本当に助けていただきました。  
私たちはそんな支援者の方々と関わっていくうちに、あの事件が起きてしまった大きな原因の  
ひとつに、適切な支援の情報がしっかり届いていなかったということに気づきました。

私たち、あいち多胎ファミリーは、まずは、そういった多胎支援の適切な情報の発信源となり、  
また、このようなイベントを開催することで多胎家族同士の繋がりを持てるような機会の提供を  
し、その先に具体的な支援として、多胎に強みのあるヘルパーの養成や多胎児の預かり事業、  
多胎児の保育園優先入園の国に対する要望、多胎児のレスパイト事業等を早期に実現できるよう、  
取り組んでいくつもりです。  
私たち多胎家族は少なくとも少子化に貢献しております。

そういう点では、双子、三つ子というだけで優先的に福祉サービスを受けることができたり、保育園に優先的に入園することができたり、そんな社会になってほしいと私は真面目に思っております。

そして多胎の子育ては親が決してひとりで抱え込むのではなく、周りの方々にご支援いただけることにより、お母さんの心にも余裕ができ、子どもを可愛いと心から愛し、みんなが笑顔で楽しく子育てができるように、当事者の私たちを含め、行政、医療、福祉、地域の方々に広く周知していき、多胎家族が子育てをしやすい環境や社会にしていきたいと思っております。

とはいえ、ひとりふたりの力では到底及びません。団体を立ち上げた理由もそこにあります。みなさま、ここ愛知でも多胎支援の輪を広げていきましょう。

今日はその初めの一步として多胎の集いを開催しました。

私自身、三つ子の育児のなかで大きな心の支えとなったのは、理事の梅村さんや他にも今日も来てくれた三つ子の母友達存在です。

同じ多胎育児を頑張っている同志の存在が一人じゃないということに気づかせてくれ、時に育児の情報交換ができ、時に家族ぐるみでお出かけをすることで、可愛いけれどそれだけでない、大変な育児も頑張ることができます。

本日、ここに集まってくださった方々は、みなさま仲間です。

ぜひ今日の交流会で、多くの仲間と繋がりましょう。

以上